

オルガノン要約 § 38～51

§ 38 A2) 新しい病気の方が強い場合

古い病気の進行は遅くなり止る。ただし新しい病気が収束するか治癒されると古い病気は治癒していない状態でふたたび現れる。多数の事例を列挙。

§ 39 互いに類似していない病気は他方の病気を治癒することはできない。

多数の事例を列挙。

アロパシーの薬を長く使い続ければ、古い病気に新しい病的状態を加えてしまう。

§ 40 A3) 新しい病気が長期間身体に影響を及ぼした場合

類似していない古い病気に加わり、一緒になって複雑な病気を形成する。

それらは自分にとって特に適した器官をそれぞれ占拠する。

類似していない二つの病気として相手を互いに取り払って治療することはできない。

多数の事例を列挙。

(注) 二つの病気は融合するのではなく、並存することを確認した。それぞれに対するレメディーを適切なときに入れ替えて使う。

§ 41 非常に頻繁に起きていることは、アロパシーによって不適切な薬を長期間使い続けたために、新しい病気が加わり複雑化した状態である。

二重の病気になり重症化し治癒できなくなり、死に至ることもある。

§ 42 自然の病気が二つ、三つの自然の病気を同じ身体に同時に発生させることがある。これは類似していない病気の場合だけである。

§ 43 二つの類似した病気が同じ身体に発症した場合、結果はまったく異なる。

自然の経過において治癒はどのように起こるのか、人間によってどのように治療されるべきなのかを示していこう。

§ 44 二つの非常に類似した病気は、互いに進行を妨げることなく止めることもない。

また、同じ身体で並存することもなく、二重になって複雑化することもない。

§ 45 類似した病気は、必ずどんな場合でも互いに根絶しあう。要するにより強い病気はより弱い病気を駆逐する。

これは強い病気が、弱い病気が占拠しているのと同じ部位を要求するからだと推測される。

§ 46 自然の病気の中でも天然痘は際立って類似の法則にしたがって多くの病気を取り払い治療する。天然痘、牛痘、麻疹の事例。

§ 47 医師がどんな種類のレメディーを選ばなければならないかは、§ 46 で述べたことよりも明白なものはない。

§ 48 自然であろうと、レメディーであろうと、類似していれば少し強いだけで治癒させることができるだろう。

§ 49 自然界にホメオパシー的に治療する病気が自然界にもっとあれば、本物の自然治癒の例をもっと見ることができただろう。

§ 50 ホメオパシー的に利用できる自然界の病気は、乾癬、麻疹、天然痘のようなものだけである。しかしこれらをホメオパシー的に使用することは難しく、むしろ危険ですらある。自然の病気はレメディと違って、投与量を微量にすることはできないからである。

§ 51 自然の病気による治癒は偶然だが、人間は多くの医薬物質からそれらを利用できる。全ての自然の病気に対してレメディは可能な限り様々に作用する。レメディのエネルギーは治療が終わったあとには生命エネルギーによって打ち負かされ、おのずから消失する。医師は医薬物質をポータンタイズし、病よりもほんの少し強くなる程度まで投与量を減らすことができる。